

「SDGs ビジネスアワード 2017」受賞！クラウド型学習システム「すらら」 インターナショナルスクール「GEMS World Academy」がシンガポールで 「すらら」を8月より導入

世界 13 カ国 250 校以上の学校を運営する「GEMS Education」が運営母体

株式会社すららネット（本社：東京都千代田区、代表取締役社長：湯野川孝彦、以下すららネット）は、クラウド型学習システム「すらら」の提供、および、運用支援を行っています。この度、シンガポールのインターナショナルスクール「GEMS World Academy (Singapore)」が「すらら」を8月より導入し、日本人生徒の母国語維持・向上のため活用します。



▲ 「GEMS World Academy (Singapore)」

「GEMS World Academy (Singapore)<URL : www.gwa.edu.sg>」が「すらら」を導入するに至ったのは、学年や日本語のレベルも異なる日本人生徒に対して、最適な学習をさせ、母国語である日本語の維持・向上を図るためです。

「GEMS World Academy (Singapore)」は母国語の教育を大切にしており、現在、昼休憩や放課後時間を活用し、日本の小学1年生～中学3年生に相当する Grade1(6歳)～Grade10(15歳)の日本人生徒約50名に対して日本語の教育を行う「Mother Tongue Programme」を実施しています。

「Mother Tongue Programme」は日本人教諭1名により行われ、漢字(漢字検定)やデジタル教科書を使用した読解の指導を実施していましたが、教員1名では幅広い学年の生徒に対し、それぞれに適切な教材を用意し、指導をすることは困難でした。さらに塾に通っている生徒もいるため、同じ学年であっても学力に幅があるという問題を抱えていました。

そこで、「すらら」を活用した学習を開始することで、教員の負荷を増やすことなく、生徒個々の学力に合わせたアダプティブな学習をさせることが可能となります。子どもたちにとっても、「すらら」はキャラクターによる対話型で根本理解を促すスモールステップのレクチャーとなっているため、教員が1名のみであっても各自で学習を進めることが出来ます。

「GEMS World Academy (Singapore)」は、世界13カ国250校以上の学校を運営する「GEMS Education」を母体とするインターナショナルスクールで、国際バカロレアを基調とする教育カリキュラムを提供しています。PreK(3歳)～Grade12(18歳)まで、全校生徒約700名を擁し、そのうち60名程度が日本人です。

すららネットでは、今後も「教育に変革を、子どもたちに生きる力を」という理念のもと、国内のみではなく、世界に向け、品質の良い教育を低価格で提供することで社会の問題を解決していきたいと考えています。

■クラウド型学習システム「すらら」とは

【学習範囲】 小学校高学年～高校3年生までの学習指導要領に準拠

【対応教科】 英語・数学（算数）・国語

【利用者数】 約40,000名（2017年4月末現在）

【特徴】

○Point 1 スモールステップでわかりやすいインタラクティブ授業

1つの単元は10から15分程度で、小さな階段を少しずつ上るような構成。

しかも授業は一方的ではなく、随所で先生役のキャラクターが問いかけを行い、問題に答えていくというインタラクティブスタイル。そのため、飽きることなく、適度な緊張感を持続し、楽しみながら学習を進めていくことが可能。

○Point 2 難易度調整や弱点診断ができる演習ドリル

一人ひとりの理解度に応じて出題される問題の難易度を調整する「出題難易度コントロールシステム」を搭載。「簡単すぎず難しすぎない」問題が出題されることで、達成感を感じ自信を深めながら、学習を進めることが可能に。また、何がわからないから問題が解けないのか理由を探る「弱点自動判別システム」も搭載。

○Point 3 現役の塾の先生による手厚いフォロー

いつまでにどこまでの学習をするかといった「月1回の目標設定」や、つまづいているところがないか「週1回程度の電話やメールでの進捗確認」など、継続して取り組めるよう現役塾講師がフォロー。また、クラウド型学習だからこそ、学習内容や正答率・解く速さなども詳細に把握できるので、お子様一人ひとりに応じたきめ細やかな学習指導が可能。

<参考>これまでのeラーニング教材の大半は以下の3パターン

1. 動画配信型：カリスマ講師のレクチャービデオを視聴するタイプ
「理解」にはすぐれているが「反復」の部分がないうえやりっぱなしになってしまい、実力が身につかない傾向がある。また、一方的な説明となるため、比較的意識の高いお子様でない、集中力が続かない。
2. 問題集型：問題集の結果をパソコンに打ち出して結果分析をするタイプ
「定着」にすぐれているが「理解」の部分がないうえ、学力の高い生徒でない、一人で学習を進めることが困難な傾向がある。
3. ゲーム型：携帯用ゲーム機などを使って学習するタイプ
非常に楽しく学習できるが、単語など反復による暗記系が中心で、体系的な学習には不向き。

「すらら」はこうしたそれぞれの短所を補い、長所を相乗効果的に組合せた、理想の"次世代型教育システム"です。



■「すらら」の“アダプティブ・ラーニング”機能

生徒の解答結果から独自のアルゴリズムにより苦手部分を分析・特定し、生徒それぞれに最適化した学習すべき解説や問題を自動で提示する機能。学習者が苦手分野を自分で克服できるようにする。

■「すらら」の人工知能

AIが個々の生徒の学習データに基づき先生の代わりに生徒と対話を行う機能「AIサポーター」を搭載。慶應義塾大学 中室牧子研究室と行った共同研究の結果を受け、「努力を促す声掛け」を中心に変更し2017年4月16日より正式運用を開始。生徒の学習意欲の向上や学習習慣の定着を促す。

■ 株式会社すらら ネット 会社概要

- 設立：2008年8月 ○ 資本金：13,795万円 ○ 所在地：東京都千代田区内神田
- 事業内容：クラウド型学習システムによる教育サービスの提供および運用コンサルティング、マーケティングプロモーション及びホームページの運営
- 会社 URL：<http://surala.jp/>
- 受賞歴：
 - ・第9回日本 e-Learning 大賞 文部科学大臣賞(2012年)
 - ・Japan Venture Awards 2014 中小機構理事長賞(2014年)
 - ・第2回「日本ベンチャー大賞」社会課題解決賞（審査委員会特別賞）（2016年）
 - ・第8回「千代田ビジネス大賞」大賞(2016年)
 - ・「SDGs ビジネスアワード2017」スケールアウト賞（2017年）